

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2022.10.7.FRI No.105

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18 (民医労内)
Tel. 022-782-0633 / FAX 022-782-0634

東北労災病院、県立精神医療センター、仙台赤十字病院、県立がんセンター
どうなる？どうする！4病院再編統合移転問題
“聞けば聞くほど大問題！”
会場 & WEB参加者100名！



(写真／「地域から病院が消える」講師の今田先生)

10月1日(土) フォレスト仙台を会場に4病院再編統合移転問題をめぐり、東北労災病院を守る会の後援もいただきZOOM併用で行い合計100名(会場69名、ZOOM31名)が参加しました。

講師の今田隆一氏(医師、新医協会会長)は、「地域からベッド・病院が消える」と題して人口あたりベッド数が全国平均より少ない宮城県で、今回の再編統合移転が進められる問題点を、病院経営の現状・課題、一般医療機能の充実の重要性に触れながら指摘し、病院と地域の関係の重さ、急性期病床が減るだけで慢性期も回復期もベッドは増えない本質を話されました。

特別講演では小泉潤氏(医師、名取メンタルヘルス協会理事長)を迎え、「精神医療センター移転反対～移転に伴う実害を考える～」と題し、名取病院以来、地域の人々と作り上げてきた地域ぐるみの精神医療の実績、作業所やグループホーム、訪問看護とも連携して築いた地域医療の財産が移転によって失われる危機感を訴えられ、移転によるマイナスではなくがんセンター西側移転でがんセンターも含めた名取での充実を提案も話されました。

講演のあと、質疑応答、患者さん・当事者のみなさんからの率直な声が上がリ、宮城県のすすめる4病院再編がいかに県民の願いに反するものか、浮き彫りとなる集いとなりました。



＜寄せられた感想、一部紹介＞

- 質問・討論がみなさんレベルが高くて、2つの講演が深められたと思います。また、まよめの閉会挨拶も良かったです。
- 大変勉強になりました。
- 当事者達の具体的な声を勇躍するような声、集いをもっと大きく重ねていく必要性をリアルに感じることができました。
- “うん うん うん” とうなずくことばかり。
- 内容を聞けば聞くほど、本当に大変な問題だと感じ、現場の状況を見ず聞かすの知事に対して、どう向き合っていけばいいのかと本当にもっともっと考えていかなければと思います。
- 移転する地域、移転を受け入れる地域の住民意識を整合させる必要がある。問題点を関係者だけでなく、広く知ってもらう必要がある。
- 問題点をいろいろと知ることができて良かったです。政治の一方的な進め方で、当事者がすべて入っていないのは問題だと思いました。
- 問題の視点（精神医療利用者）を新たに認識できた。一般人（医療関係者ではない）ですが、問題の認識ができました。
- 4病院再編について参考になりました。
- 当事者・地域住民に情報を出さず又意見も聞かずに独断での進め方で「選挙公約で信任を得た」との結論にはならない。将来像も示さず秘密裏に具体化することは許されない。政府の閣議決定をまねたのだろうか。このような地域医療のあり方も厚労省は認可するのだろうか。ろうさい病院の患者で担当医から“〇月までしか診てあげられない”と言われ途方にくれている例もあります。
- 私自身勉強不足もあって、よく理解できないところもありましたが、勉強すべき課題が見つかったような気がします。
- すべて今の国と同じ、市民・県民・国民・住民無視で進められていることに不安を感じます。
- 精神医療について話を聞くことができありがとうございました。がんセンター・日赤か経営主体になった場合の図がよくわかりました。医療の質の話も良かったです。がんセンターの隣に精神医療センター設置を…私もそう考えていました。

患者負担の増大指摘

4病院再編 仙台で学習会

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想に関する学習会が1日、仙台市青葉区のアリスト仙台であった。「地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会」が主催し、再編に反対する医療関係者らが、病院移転に伴う患者の負担増大などの問題点を指摘した。

会場とオンラインで計約100人が参加。県保険医療協会理事で坂総合クリニック（多賀城市）の今田隆一医師は、高齢化が進み医療需要が増している状況を挙げ、「急性期などの病床や病院が減ることは、医療圏や県全体でマイナスの問題だ」と強調した。

NPO法人名取メンタルヘルズ協会理事長の小泉潤医師は、県立精神医療セン

ター（名取市）の周辺でグループホームなどの整備が進み、地域と連携して患者を支えてきた歩みを解説。

県の構想で富谷市に移転した場合、「患者の移動や交通費の負担が増える上、医療スタッフも通勤が困難になり、離職者が多くなる恐れがある」と強調した。

主催団体は引き続き、各地で学習会などを開催していく予定。



4病院再編の課題を話し合った学習会

白石・刈田病院 公設民営化

指定管理者ききょう審査

白石市の公立刈田総合病院の公設民営化で、来年4月から病院運営を担う指定管理者の選定審査会が3日、病院内で開かれる。県外の2法人が応募してお

り、早ければ同日中にも審査を終える見通し。市と蔵王、七ヶ宿両町でつくる病院運営組合によると、審査会は伊藤貞嘉院長代行や富田一栄（富田）総務省経営

強化アドバイザーら6人で構成。3日は2法人がそれぞれ企画提案の内容を説明した後、審査会が順位を決める。組合は審査会の結果を受

け、6日の山田裕一市長らによる正副管理者会議で指定管理者候補を決める。組合議会の議決を経て、今月中の協定締結を目指す。病院は来年4月に市立病院に移行する。公設民営化では、市が政策医療として掲げる透析医療、救急、周産期医療を指定管理者側がどこまで反映させるかにも注目が集まる。

宮城県立精神医療センター

職員77% 移転に反対

4病院再編

宮城県が主導する仙台医療圏4病院再編構想(2)で、県立精神医療センター(名取市)の富谷市移転を職員の77・6%が反対していることが、運営する県立病院機構が実施したアンケートで分かった。賛成意見は8・2%にとどまった。現場職員は精神科医療の継続や通勤負担の増加に懸念を訴えており、推進姿勢の県に再考を促した格好だ。

(3面に関連記事)

がんセンターは賛否拮抗

調査は6月、本部事務局と県立がんセンター(名取市)を含む病院機構全職員863人を対象に実施し、583人(67・6%)が回答した。精神医療センター全職員のうち183人(77・9%)

の回答はグラフ(左)の通り。「反対」が最も多く60・1%、「どちらかといえば反対」17・5%。「どちらでもない」10・4%が続き「賛成」は4・4%、「どちらかといえば賛成」は3・8%だった。

富谷市移転への支障を尋ねると「かなり支障がある」73・2%、「やや支障がある」10・9%と計84・1%が懸念を示し「全く・あまり支障がない」の10・4%と大きな差が生じた。主な回答理由(全職員)は「変化への対応が不得手で移転先に通院できるか不安を抱える患者が多い」「名取市を中心に築き上げてきた支援ネットワークが白紙になり、地域移行が滞るとの苦言が相次いだ。センター周辺に住む職員が多く「夜勤をしながら通勤に1時間以上かかるのは生活に支障が出る」との指摘もあった。同じく再編構想で、仙台赤十字病院(仙台市太白区)と県立がんセンターを統合して名取市植松入生地区に移す案に対し、がんセンター全職員のうち390人

(63・3%)の回答結果はグラフ(右)の通り。移転場所への賛否は「どちらでもない」が24・4%で最多。「どちらかといえば賛成」23・3%と「賛成」11・5%の合計は34・8%。「どちらかといえば反対」19・7%と「反対」14・1%の合計は33・8%で、賛否が拮抗した。



? 仙台医療圏4病院再編構想 救急や産産期医療が仙台市に集中していると、宮城県が主導し、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に、東北労災病院（仙台市青葉区）と県立精神医療センターを合築して富谷市にそれぞれ移転させる構想。新病院候補地として5月に富谷市が明石台地区約6㍍、名取市が植松入生地区約4・8㍍を県に提案した。

移転場所に支障があるかどうかの問いには「全く・あまり支障がない」が50・5%で、「やや・かなり支障が

ある」が40・5%。主な回答理由では最寄り駅からの距離を巡って評価が分かれたほか二つの病院を統合

するには（土地が）手狭だ」との意見もあった。

4病院再編構想は村井嘉浩知事が昨年10月の知事選で公約に盛り込み、本年度内に関係機関との合意を目指している。

アンケート結果は渡辺拓県議（太白選挙区）と病院関係者への取材で判明した。

宮城県立精神医療センター！職員調査

地域ケア喪失を懸念

通勤負担増で離職も

地域で患者の命を守る官民支援ネットワークが失われる。宮城県立病院機構が実施した職員アンケートで、県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転に現場から強い懸念が示されていたことが明らかになった。県南の精神科医療の基幹の病院の県央移転を掲げる県は「県南部に空白を生じさせない」と説明するが、現場に大きなひずみを生みかねない。

（1面に関連記事）

県立病院機構は職員アンケート結果を基に7月、4病院再編構想に関する考え方を県に文書で送った。文書では、精神科医療の継続性に関して①40年以上、名取市民の理解のもとで構築された地域ケアシステムが失われる②患者が通院できなくなる③県南部の精神科医療に大きな空白が

できる—という3点の懸念を示した。職員の通勤負担が業務に及ぼす影響も言及した。職員の7割が仙台市太白区以南に住み、特に看護師の夜勤に切実な問題が生じると指摘。「多くの職員の離職も懸念され、診療そのものや精神科24時間救急体制に大きな影響が出る」「災害初



①宮城県南の精神科医療の基幹となっている県立精神医療センター＝名取市手倉田
②名取市植松入生地区への移転構想がある県立がんセンター＝名取市愛島塩手



動対応が相当困難になる恐れも否定できない」と強い憂慮を示す声を列記した。これに対し、県は9月22日付で病院機構に文書で回答した。「地域の医療機関

との連携や人材育成に取り組みながら、県南部の精神科医療に空白が生じないよう引き続き検討する」などとする内容。ある精神医療センター関係者は「具体性は乏しく、回答になっていない」と話す。

県立がんセンター（名取市）と仙台赤十字病院（仙台市太白区）を統合して名取市植松入生地区に移転させる構想にも、現場職員から疑問符が付いた。新病院の建設候補地の敷

地面積約4・8畝は現がんセンター約6・9畝の3分の2程度と狭い。「二つの病院を統合するにはかなり狭隘で、十分な駐車場を確保できるか課題」。津波浸水想定区域を候補地とすることも懸念を示した。

県は回答文書で「候補地は平たんで、現センターは丘陵地。面積のみで比較できない。いずれにせよ必要敷地の規模確保は重要」とし「引き続き検討する」との文言を繰り返している。

白石・刈田病院

指定管理候補に「仁誠会」

奈良の法人審査会が選出



指定管理者候補が選出された刈田病院。白石市福岡蔵本

白石市の公立刈田総合病院の公設民営化で、来年4月から病院を運営する指定管理者の選定審査会が3日、院内であり、宮城県外から応募した2法人を審査した結果、指定管理者候補として奈良市の医療法人「仁誠会」を選出した。

(14面に関連記事)

法人の今村豪理事長は自治医科大卒で、全国で22法

人47施設を経営する今村メディカルグループ(IMG)を率いる。ホームページによると、一般急性期病院や療養病院の運営、在宅医療・介護サービスの提供を手がけている。

選定審査会会長の伊藤貞嘉院長代行(68)は取材に、選出理由の一つとして「組織の大きさ、医師を集める力の大きさ」を挙げた。も

う一つの法人は奥州市の医療法人「啓愛会」で、2法人の採点結果に大きな差はなかったと説明した。

審査会は医療関係者や弁護士ら有識者メンバー5人が2法人の企画提案を採点し、伊藤院長代行が意見をまとめた。

伊藤院長代行は仁誠会の

提案内容などについて明らかにせず、詳細は答申書に

まとめて週明けに組合管理者の山田裕一市長に提出する意向を示した。公設民営化に向けては「今後もたくさんの問題が出てくるだろうが、最終的に患者、社会に貢献する組織に変わっていかねばいい」と語っ

た。

審査会の結果を受け、市と蔵王、七ヶ宿の1市2町でつくる病院運営組合は6日、山田市長らによる正副管理者会議で指定管理者候補を正式に決定する。組合議会の議決を経て協定を結び、公設民営化の準備を本格化させる。

白石・刈田病院 指定管理者候補選出

組織の大きさ決め手

審査会、周産期医療「困難」

白石市の公立刈田総合病院の公設民営化で、来年4

月から病院運営を担う指定管理者の選定審査会は3日、奈良市の医療法人「仁誠会」を指定管理者候補に選んだ。応募した2法人から絞り込む決め手の一つに

なったのは「組織の大きさ」だった。

審査会会長の伊藤貞嘉院長代行(68)が終了後、報道陣の取材に応じた。

医師不足の現状を踏まえた上で、選出理由の一つに「医師を集める力の大きさがあるかもしれません」と明かした。仁誠会の今村豪

理事長は全国の22法人を営するグループを率いており、その実績が評価された模様だ。

伊藤院長代行は市が求める「救急の受け入れ態勢構築」に関し「刈田病院に患者が来たらちゃんと受け入れて対応する。対応できない場合はみやぎ県南中核病院(大河原町)を紹介し、

良くならなかったらこちらで引き

受ける医療を展開する。どちらの法人もそうおっしゃっていた」と説明した。

山田裕一市長が目指す周産期医療の復活は「2法人に温度差があった」としつつ「周産期に政治的な問題と現実的な問題がある。市の規模では黒字にならないのが一般的」と指摘した。

審査会は冒頭、山田市長が市民アンケートの結果を基に周産期医療の必要性を訴え、伊藤院長代行が「そう簡単にはいかない。この予算では無理」と突き放す場面もあった。

市幹部は「市長の公約と市民アンケートは周産期医療復活で一致している。人口減に歯止めをかけるためにも、実現に向けて法人と協議したい」と語った。



審査会を終え、報道陣の取材に応じる伊藤院長代行(左)

宮城・公立刈田総合病院 民間の指定管理者の候補に奈良県の医療法人

<https://www.khb-tv.co.jp/news/14733871>

10月03日 khb東日本放送



宮城県白石市の公立刈田総合病院の公設民営化に向け病院の運営を担う指定管理者の選定審査会が開かれ、奈良県に本部を置く医療法人を候補に選びました。

公立刈田総合病院は、白石市、蔵王町、七ヶ宿町の1市2町でつくる組合が運営する病院で、赤字経営が続き経営の健全化が課題です。

1市2町は2023年3月末に組合を解散し、4月には刈田総合病院を白石市立の病院にしたう

えで民間の指定管理者に運営を任せることにしています。

これまでに県外の2つの医療法人が応募していて3日、指定管理者の候補を選ぶための審査会が開かれました。

審査の結果、奈良県に本部を置く医療法人、仁誠会を指定管理者の候補とすることが決まりました。審査会は、週明けにも病院の管理者である山田裕一白石市長に結果を答申する予定です。

公立刈田総合病院の指定管理者候補 奈良県の医療法人を選出

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20221003/600021179.html>

10月03日 NHK仙台放送



来々4月から公設民営の病院として運営する白石市の公立刈田総合病院で、指定管理者の候補を選ぶ審査会が開かれ、奈良県に本部を置く医療法人が選出されました。

公立刈田総合病院は、白石市と蔵王町、七ヶ宿町の1市2町でつくる組合が運営する病院で、大きな累積赤字が課題となり、来々4月から公設民営の病院として運営を行う予定です。

3日は、病院運営を担う指定管理者の候補を

選ぶ審査会が開かれ、来々年度からの運営を希望する県外の2つの法人が訪れて、企画提案を行いました。

審査会のあと、伊藤貞嘉院長代行が病院内で記者会見を開き、奈良県に本部を置く医療法人「仁誠会」が指定管理者の候補に選ばれたと発表しました。

会見の中で、伊藤院長代行は「2つの法人にはそれぞれ長所・短所があり、非常に難しい選定だったが、医師を集める力や事業規模を決め手の1つにした。地域医療と連携し、住民に身近な病院を目指して欲しい」と述べました。

組合によりますと、今回の結果を受けて、10月6日、組合の管理者である白石市の山田裕一市長が正式に候補を決定したうえで、10月中に協定の締結を行う予定です。

“公設民営化”の公立刈田総合病院 運営は奈良の医療法人が候補に

<https://news.yahoo.co.jp/articles/c3000736201a979559842ae7ae302bd74e8ec8d>

10月03日 tbc東北放送



宮城県白石市の公立刈田総合病院の公設民営化を巡り、3日の選考審査会の結果、奈良県の医療法人が候補に選ばれました。

公立刈田総合病院・伊藤貞嘉院長代行：
「(審査の)結果ですけれども、仁誠会という(医療)法人に決まりました」

来々4月の公設民営化を目指す公立刈田総合病院では、先月26日に指定管理者の募集が締め

め切られ、県外の2つの法人が名乗りを上げていました。

病院関係者ら6人が委員を務める3日の選考審査会では、採点形式で審査が行われました。

その結果、奈良県の医療法人「仁誠会」を指定管理者にすることが決定しました。詳しい選考理由については、今後、ホームページなどで明らかにするということです。

一方、白石市の山田裕一市長が掲げている周産期医療の導入について、審査会は、人口的な面から見ても黒字になる可能性は低いとして、導入に消極的な見解を示しました。

公立刈田総合病院・伊藤貞嘉院長代行：

「(周産期医療は)この町のレベルで100~200人の妊婦を見るだけでは、到底普通は黒字になることはない」

白石市などでつくる組合は、今月中に病院議会にかけ、協定を結びたい考えです。

<参考>

医療法人「仁誠会」

奈良セントラル病院

所在地	奈良市石木町800
最寄駅	●近鉄奈良線 学園前駅より4.2km ●近鉄橿原線 近鉄郡山駅より4.5km
駐車場	有り
電話番号	0742-93-8520
FAX	0742-93-8521
理事長	今村 豪
院長	大窪 英矢
診療科目	内科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科、呼吸器内科、神経内科
病床数	111床
職員数	250名
主要設備	・リハビリテーションルーム ・手術室 ・CT室 ・一般撮影室 ・X線TV室
外来診療日	月曜日～土曜日
診療受付時間	8:30～11:30
面会時間	(平日)13:00～20:00 (土・日・祝日) 11:00～20:00
休診日	日曜日・祝祭日・年末年始

奈良県の医療法人が候補
宮城・白石市の公立刈田総合病院の公設民営化

<https://www.mmt-tv.co.jp/nnn/news105ww3qwmlg1hgro1m4.html>

10月04日 ミヤギテレビ



白石市の公立刈田総合病院の公設民営化をめぐり、病院を運営する指定管理者の選定審査会が3日開かれ、奈良県の医療法人が候補に選ばれた。

公立刈田総合病院は白石市、蔵王町、七ヶ宿町でつくる組合が運営する病院で、1市2町は赤字経営の健全化を図るため来年3月に組合を解散し、4月から公設民営化を目指している。

病院を運営する民間の指定管理者には県外の2つの医療法人が応募。3日の選定審査会で組織の規模や医師の確保などを考慮した結果、

奈良県の医療法人「仁誠会」が指定管理者の候補に選ばれた。

審査会は10月10日までに病院の管理者である白石市の山田裕一市長に選定結果を答申する予定。

10月05日 河北新報

患者、職員より「県民優先」

知事、4病院再編で強調

県議会一般質問

県議会9月定例会は4日、一般質問を続けた。県が主導する仙台医療圏4病院再編構想で、県立精神医療センター（名取市）の富谷市移転を職員の77・6%が反対した県立病院機構のアンケート結果について、村井嘉浩知事は「働いている人、通院や入院している人も重要だが、その後ろにいる大勢の県民を最優先に考えたい」と答弁。構想を通じ、県全体の政策医療の課題解決を図る姿勢を改めて強調した。

村井知事は「（関係機関の）基本合意に至る状況になれば、職員と膝詰めで話し合って理解を得たい」と説明。2019年3月の県循環器・呼吸器病センター（栗原市）の閉院に言及し「職員の希望に対応し、首を切るようなことはしなかった。今回も方針を示した上で意見を聞き、処遇などを考えていく」と述べた。

郡和子仙台市長は構想が実現すれば、市内の2民間病院が市外に移転するとして、9月13日に再提出した意見書で県の責任による医療機関誘致などを求めた。

知事は「仮に移転しても、跡地に県の意向だけで誘致することは難しい」と否定的な考えを明らかにした。

北朝鮮は今月4日朝、弾道ミサイル1発を発射した。佐藤達哉復興・危機管理部長は「ミサイル落下時に取るべき避難行動などを県民に周知する必要性は高まっている」と指摘。国と県、市町村によるミサイル発射を想定した共同訓練の実施を今後、市町村に呼びかける意向を示した。

村井知事は「（関係機関の）基本合意に至る状況になれば、職員と膝詰めで話し合って理解を得たい」と説明。2019年3月の県循環器・呼吸器病センター（栗原市）の閉院に言及し「職員の希望に対応し、首を切るようなことはしなかった。今回も方針を示した上で意見を聞き、処遇など

仙台医療圏4病院再編

選挙公約も根拠 知事理解求める

県議会9月定例会は5日、一般質問を続けた。県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想を巡り、村井嘉浩知事は「30年先、50年先に人口がどんどん減る中で県全体の地域医療をどう

考えていくか。大きなレンジ(幅)で物事を判断してほしい」と理解を求めた。5選された昨年10月の知事選で構想を公約に掲げたことに触れ「県民から『やっていい』という声を寄せて

いただいた」とも強調した。

県立精神医療センター(名取市)の富谷市移転に關し、地域の理解や支援ネットワーク構築への懸念を指摘された村井知事は「簡単ではないが、センターが名取にできたときも同じような問題があり、時間をかけてやってきた」と指摘。

「(患者や職員ら)今の人たちが不便になるのは分かっているが、県中心部に持つていくことで県民全体の利益になる」と説明した。

県立がんセンター(名取市)が持つ高度医療や研究所の機能について、知事は東北大病院や東北医科薬科

大病院との機能分担と連携、補完を検討する考えを表明。仙台赤十字病院(仙台市太白区)と統合後の新病院の経営主体は協議中だが「がんを総合的に診療でき、がん診療連携拠点病院の位置付けを引き継ぐ」との見通しを示した。

佐々木喜蔵(自民党・県民会議) 境恒春(みやぎ県民の声) 本木忠一(自民党・県民会議) 岸田清実(社民フォーラム県議団)の4氏が登壇した。

病院事業管理者 辞任

涌谷町と病床削減で対立

涌谷町は5日の町議会全
員協議会で、2018年に
就任し今年4月再任された
病院事業管理者の大友和夫
氏(73)が9月30日付で辞任
したと報告した。町国保病
院(121床)の経営改善
を巡り大友氏は、町諮問機
関が答申した早期の病床
数削減に慎重姿勢を示して
いた。答申を踏まえた対応
を求める町との対立が辞
任につながったとみられ
る。

遠藤稔雄町長は「私が選
んだ管理者が半年で辞める
のは私の責任。病院が立ち
行くよう頑張るしかない」

と述べた。県などと相談し
後任の人選を進める。当面
は横井克己院長(72)が職務
代理者を務める。

報告に合わせ、来年4月
に同院の病床数を99に減ら
す方針も示された。

「財政非常事態」を宣言
する町の諮問機関は5月、
財政悪化を招いたとして、
町国保病院の経営改善策を
答申。稼働率が高い地域包

括ケア病床を増やし、一般
病床を減らすことなどの検
討を町に求めた。

大友氏は7月、「3年間
様子を見たい」と病床数の
維持を要望。町に難色を示
され3年間の収支計画提出
を求められると、削減の検
討着手に同意したが、8月
末に病院事務長が辞任した
のに伴い、町長に口頭で辞
意を伝えたという。

刈田総合病院（宮城・白石市）の公設民営化 奈良県の医療法人を指定管理者とする案が正式に決定する見通し

<https://www.mmt-tv.co.jp/nnn/news105nr4pqvjyexw0godi.html>

10月06日 ミヤギテレビ



経営難から公設民営化が検討されている白石市の刈田総合病院について、奈良県の医療法人を指定管理者とする案が10月17日にも正式に決定する見通しとなった。

6日刈田総合病院の公設民営化に関する審査会は、現在病院を管理する白石市の山田裕一市長へ、奈良県の医療法人「仁誠会」を指定管理者とする案を提出した。

刈田総合病院は白石市・蔵王町・七ヶ宿町の1市2町で作る組合が運営しているが、経営難のため来年4月から公設民営で運営される予定。

「仁誠会」は医師確保の実績などから指定管理者の候補に選ばれたとのこと。

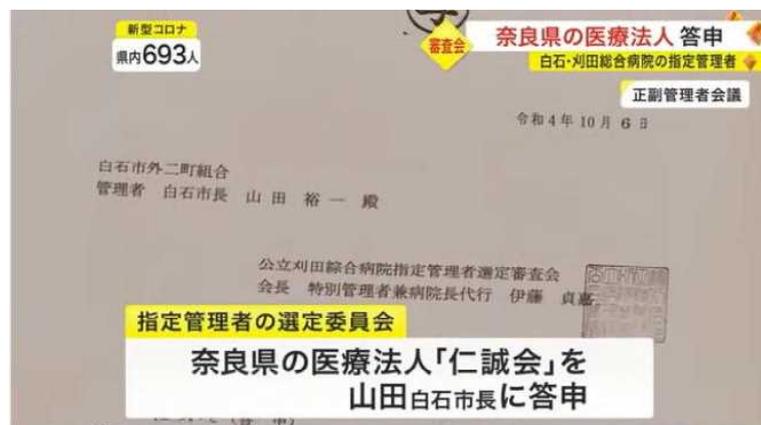
1市2町の組合は10月17日に臨時議会を開き、可決された場合は仁誠会が指定管理者として正式決定する。

来年4月市立病院としてスタート

白石市・刈田総合病院の指定管理者に奈良県の医療法人を答申〈宮城〉

<https://nc.ox-tv.co.jp/news/detail/2022100600007>

10月06日 仙台放送



来年4月から「公設民営化」を目指す、白石市の公立刈田総合病院について、指定管理者の選定審査会は候補に選出した、奈良県の医療法人を10月6日、市長に答申しました。

白石市にある公立刈田総合病院は白石市、蔵王町、七ヶ宿町でつくる組合が運営していて、来年4月から公設民営の市立病院としてスタートすることが決まっています。

病院の指定管理者について、6日に開かれた組合の会議の中で、選定審査会は先日候補として選出した奈良県の医療法人・仁誠

会を、組合の管理者である白石市の山田裕一市長に答申しました。

白石市 山田裕一 市長

「管理者として本日の答申は、非常に重いものであると受け止めている」

10月17日に開かれる組合の臨時議会の議決を経てその後、協定が結ばれる予定です。